



# 自然と共生し豊かに生きる 北但馬路・豊岡

豊岡盆地の中央を悠々と  
穏やかに流れる円山川。  
時に水害という脅威を与えながらも、  
この川は生き物や産業を育み、  
人々にも多くの恵みをもたらしてきた。  
『母なる川』に抱かれた豊岡市では、  
自然を守り、  
人の暮らしも豊かにする  
まちづくりが行われている。



1. のどかな景色が広がる、水と緑に恵まれた街・豊岡市。
2. 水田などではコウノトリの姿を目にすることができる。



登録有形文化財  
豊岡市役所旧庁舎



3. 現・豊岡市役所の前に建つ旧庁舎は、2013年に曳家改修し、現在、市議会場として使用、有形文化財として保存されている。
4. 北近畿豊岡自動車道は現在、日高神鍋高原まで開通。2017年3月には式典が行われた。
5. コウノトリ但馬空港。大阪(伊丹)～但馬間は40分と空からのアクセスも便利。

## 高速道路の開通で 人気観光地が一気に近づく

豊岡市は、2005年に1市5町が合併して  
きた、兵庫県・面積の大きい市。ここで今、丹波  
と但馬を結ぶ、全長約70kmの北近畿豊岡自動車  
道の建設が進められている。2017年3月には、  
八鹿水ノ山〜日高神鍋高原間が開通した。最終的  
には山陰近畿自動車道とも接続する。

完成すれば、京阪神から豊岡へのアクセスは一気  
に向上する。城崎温泉や神鍋高原などの観光地も  
近くなることから、この道路は「大交流の道」とな  
ることが期待されている。また、今まで以上にス  
ピーディーな救急搬送が可能になり、「命の道」と  
して、さらに、「危機管理の道」としても重要な役  
割を担う。

下流部の河川勾配が約1万分の1という円山川  
は、ほぼ水平で、まるで静止しているかのような  
穏やかな川だ。その反面、大雨が降ると水が滞留  
しやすく、豊岡は幾度となく水害に苦しんできた。  
高規格幹線道路があれば、災害時の救援ルート  
と、周辺地域の平常の暮らしを保つことができる。  
なお、市街地の南西にはコウノトリ但馬空港が  
あり、東京からは大阪乗り継ぎで最短2時間10分  
でアクセスできる。

## 普段優しく、時に恐ろしい 『母なる川』円山川

市街を歩くと、静かに流れる円山川を中心に、  
水田が広がり、山々が連なる、のどかで美しい景  
色が目に映る。豊岡の人々にとって、円山川とは  
どのような存在なのだろう。

最も記憶に新しい大水害は、2004年10月、  
台風23号が但馬地方を襲った時のことだ。堤防が  
決壊し、床上浸水は半壊・全壊を含め5000世  
帯。7名の死者が出る大災害となった。

しかし、豊岡の人々が復興に求めたのは、治水  
だけではなく、再び美しい円山川を取り戻すこと  
だったという。そのために、コンクリート護岸では  
なく、遮水シートを敷いて土をかぶせ、草が青々  
と茂る堤防がつけられたほか、コウノトリがエサを  
とりやすいよう、河川敷を浅く広く掘って水量が  
確保された。

時に氾濫することがあっても、豊岡の人々にとつ  
て、円山川はそれ以上に恵みを与えてくれる『母な  
る存在』なのだ。自然に抗わず、自然と共に生き  
る姿勢が、ここには根付いている。



## 日本海側では柴山港にて 船舶の安全を守る整備事業が進行中。

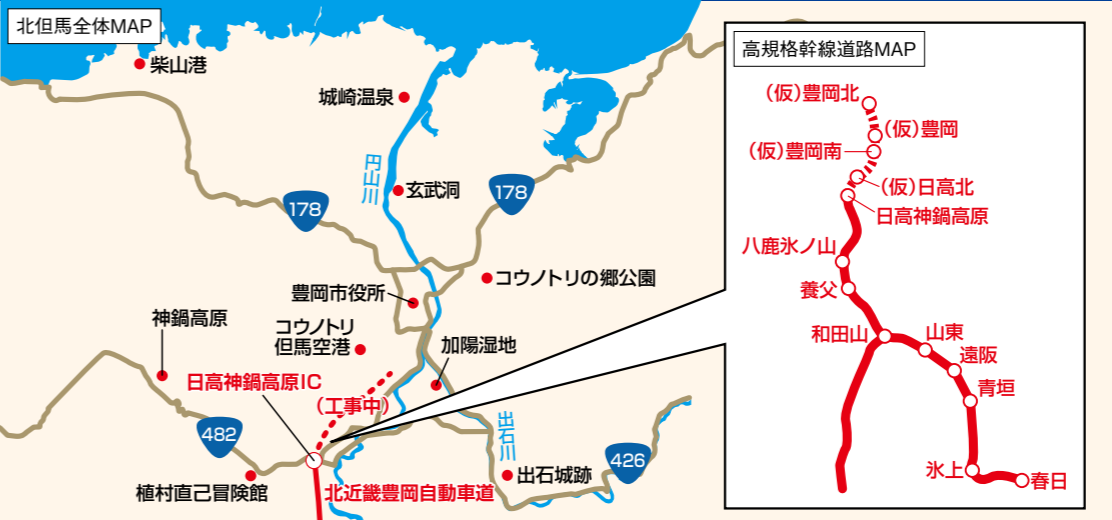
但馬地方の北部・日本海でも、自然を相手にした安全確保のための工事が行われている。

柴山港は、全国36港ある避難港の1つ。荒天時に航行中の船舶が安全に港に避難できるよう、整備を進めている最中だ。

ここでは曲面で波を受け、円筒の内部で波同士をぶつけることで、波の圧力を低減する「二重円筒ケーソン」という防波堤を採用。一般的な箱形ケーソンに比べて船への波の跳ね返りも少なく、景観の面でも優れている。全15函中の8函が、現在、沖合に設置されている。



6. ケーソンは地上で製作し、海中に据え付ける。その大きさは圧巻! 7. 曲面で波を受け流しながら、波同士をぶつけて消波するシステム。8. コンクリートの色や規則正しく並んだ窓で景観にも配慮。

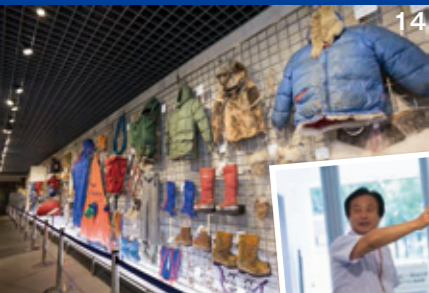




12



13



14



11

11.豊岡が生んだ偉大な冒険家・植村直己の“人ところ”を後世に伝える「植村直己冒険館」。12.植村直己冒険館外観。自然と一体化したデザインで、構造物の大半が地中にある。13.屋外のメモリアルウォールには、植村直己の生涯と行動の軌跡が刻まれている。14.冒険に使われた装備品の数々。これを見るだけでも雪山の厳しさが伺える。15.植村直己の人となりや熱く語る吉谷館長。



15

※1.ラムサール条約：特水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約。河川名が入る登録は、日本では円山川が初めて。  
※2.植村直己冒険館：植村直己冒険館は、1996年日本建築学会賞、2008年土木学会デザイン優秀賞を受賞しました。

自然の優しさと恐ろしさ、その両方を見せる円山川が、自然を受け入れ、その中で逞しく生きる偉人たちを育てたのだろう。



9.市内数カ所に人工巣塔が建てられていて、コウノトリは主にそこで子育てをしている。  
10.コウノトリを間近で観察することのできる「コウノトリの郷公園」。



10 9



### コウノトリが舞う 恵み豊かな街の魅力を満喫

円山川が育んだ、豊岡を代表する生き物といえはコウノトリである。豊岡は、環境の悪化によって絶滅した野生のコウノトリ最後の生息地。かつては円山川の浅瀬や、その流域に広がる水田をエサ場として、コウノトリが生息していた。

数の減少を受けて、人工飼育を開始してからヒナが誕生するまで実に24年。2005年には「コウノトリ野生復帰プロジェクト」により、ついに初放鳥が行われた。現在、野外で生息するコウノトリは100羽まで増えている。

コウノトリを甦らせる活動は、まちづくりにも影響を与えている。豊かな生態系を取り戻すため、豊岡では水田や湿地を再生・創出する取り組みが行われてきた。たとえば、円山川の支川・出石川の加陽地区では、国が休耕田を買い取り、地域と連携して人工湿地をつくりあげた。多様な環境で構成される美しい水辺に、何羽ものコウノトリが舞い降りる姿は壮観だ。

2012年には、円山川下流域及び周辺水田を「ラムサール条約」に登録。価値ある取り組みを行う街として、さらに認知度が高まった。

また、農業に頼らない農業を「コウノトリ育む農法」として確立し、ブランド化することで経済効果も生み出している。この農法の米を使ったお菓子など、新たな特産品にも注目したい。

優雅に空を舞うコウノトリの姿は、人と自然の

共生が可能であることを、誇らしげに教えてくれているように見える。

### 円山川が育んだ地場産業と 大自然に挑んだ偉人たち

豊岡には、ほかにも円山川によって育まれたものが多い。一つは、湿地に自生するコリヤナギを編んでつくったカバン「柳行李」だ。これが現在のカバン産業へと発展し、豊岡は国産カバンの出荷額日本一を誇っている。

また、「治水の神様」と言われた沖野忠雄、「砂防の神様」と言われた赤木正雄という2人の偉人も輩出した。常に円山川と共にある豊岡での暮らしが、2人に「河川改修に力を尽くす」という使命感を抱かせたのかもしれない。

そしてもう1人、豊岡が生んだ偉人として忘れてならないのが、世界中の人から愛された冒険家・植村直己である。日高神鍋高原インテラーからすぐの所にある「植村直己冒険館」を訪れると、想像を絶する過酷な挑戦と、不撓不屈の精神が肌で感じられて、思わず息を飲む。

豊岡市長 中貝 宗治さん

### コウノトリと共に生きる街として 環境保全と経済の活性化を両立

「いつか再び空に帰すから」と約束し、コウノトリを人工飼育し始めて50年余り。その間、私たちはコウノトリが暮らせる自然環境の再生に力を入れてきました。そして、環境をよくするだけでなく、それによって経済効果が生まれれば、人々の暮らしも豊かになるとの考えから、「豊岡市環境経済戦略」を策定し、環境と経済が共鳴する仕組みづくりを行っています。市が認定した環境経済型事業の売上総額は、2015年で52億円。これは、環境と経済の両立という発想を与えてくれた、コウノトリの恩恵といってもよいでしょう。

豊岡には他に、外国人にも人気の城崎温泉、ウインターレジャーが楽しめる神鍋高原など、魅力的なスポットがたくさんあります。流れの少ない円山川はボート競技にも適していて、日本代表チームの強化合宿地にも選ばれました。円山川周辺の湿地帯から生まれ発展したカバン産業も、今や世界で注目されています。より多くの人に豊岡の魅力を味わっていただくためにも、北近畿豊岡自動車道の一刻も早い全線開通が期待されます。

高規格幹線道路の建設はもちろんだ、自然と共生する街として、水害や大雪時の建設業の方々の尽力にも心から感謝しています。



かやしつち 加陽湿地 (右上)整備後のイメージパース。(右下)整備前の全体俯瞰。(左)整備中の全体俯瞰。